



2015年の始まりです。昨年(90歳)の義母が手根幹症候群という手に激痛が走る病を患い、苦勞の末やっと快方に向かったと思いきや、嚙下障害で肺炎を起こし緊急入院。退院した翌日にまた入院、今度は嚙下困難で鼻経管栄養の注入を余儀なくされるといふ有様。そんな中、ゆらぎさんまで体調を崩し、あらま〜という感じでした。運よく、義母の経管栄養のチューブがとれ、ゆらぎさんの調子もだいぶ良くなったな〜という頃、今度は義母が脊柱のズレからくる坐骨神経痛を発症。これも治るかなと思つたところで今度はインフルエンザ(△)。ってな感じで、創作活動は、ほぼ休止状態でありました。

で、今年のフラクタルのテーマは「螺旋」です。指でたどる土上の「らせん」それは、時の流れにも似て決して同じ場所には戻りません。次に指のたどる場所が、新たな感動の場であることを願つて、、、今年もまた人生という名の「ろくろ」を回し続けます

2015年の始まりです。昨年(90歳)の義母が手根幹症候群という手に激痛が走る病を患い、苦勞の末やっと快方に向かったと思いきや、嚙下障害で肺炎を起こし緊急入院。退院した翌日にまた入院、今度は嚙下困難で鼻経管栄養の注入を余儀なくされるといふ有様。そんな中、ゆらぎさんまで体調を崩し、あらま〜という感じでした。運よく、義母の経管栄養のチューブがとれ、ゆらぎさんの調子もだいぶ良くなったな〜という頃、今度は義母が脊柱のズレからくる坐骨神経痛を発症。これも治るかなと思つたところで今度はインフルエンザ(△)。ってな感じで、創作活動は、ほぼ休止状態でありました。

## サグラダファミリア

スペインのバルセロナにあるサグラダファミリア大聖堂あの有名なアントニ・ガウディが設計した教会です。造り始めて130年。おい、いったいつになったら完成するんだよ〜、と言われてたこの未完の聖堂が、11年後の2026年に遂に完成するそうです。なんと、この大聖堂全体が実は楽器になるように設計されていたコトが最近になって分かりました。



## フラクタル

フラクタルの形は、木々の枝の伸び方や葉っぱの葉脈の広がりなど、自然の中によく見られますが、コンピューターにプログラムすることによつても描けるようです。グーグル等でフラクタルの画像で検索すると興味深い画像がいっぱい出てきます。左の画像は僕のお気に入りのひとつです。

## 生徒さんの作品紹介



富士山の箸置き  
世界遺産に指定された縁起物です。



織部焼き

## タニシのテレポーション

<連載その7> 由良作  
話によると、ふたりの子供は自分たちからシラザギに向かっていったらしい。ひとりには真っ向から一突きにされ、ふたりめは逃げようとするところを後ろからやられていた。「やっぱり俺らタニシに瞬間移動なんてできないんじゃないか・・・?」ゾン爺の元を離れる子供たちがあいついだ。それでもゴンタは親の目を盗んではゾン爺のところへ通い続けた。なぜなら、以前見た夢の光景とゾン爺の話があまりにも似通っていたからだ。それは、とても高いところから飛び降りたつもりが、次の瞬間、見たこともないような大沼地の中において、気が付くと自分の倍くらい大きさでケバイ色をしたタニシが何匹もいる・・・というような夢だった。



バック No が気になる方は  
www.yurasan.com

## 陶芸の話

戦国武将でもあり、三大茶人のひとり古田織部がこよなく愛したのは、その器のゆがみさえも良しとする自由闊達な表現方法でした。博多の貿易商で茶人でもある神谷宗湛がそのひょうきんな形を「へうげもの」と評したそうです。こんな茶碗アナタもつくって見ませんか?



## ウサギの「よん太」くん

動物愛護協会からクレームが入るかも知れませんが、うちのウサギは、ただいま「お手」の特訓中です。食べ物でつると、だいたい出来るようになりました。ただし、常に両手いっしょなのでお変わりは無理のようです。